

魅力あるまちづくりを目指した  
持続可能な都市の構築の検討

人口について

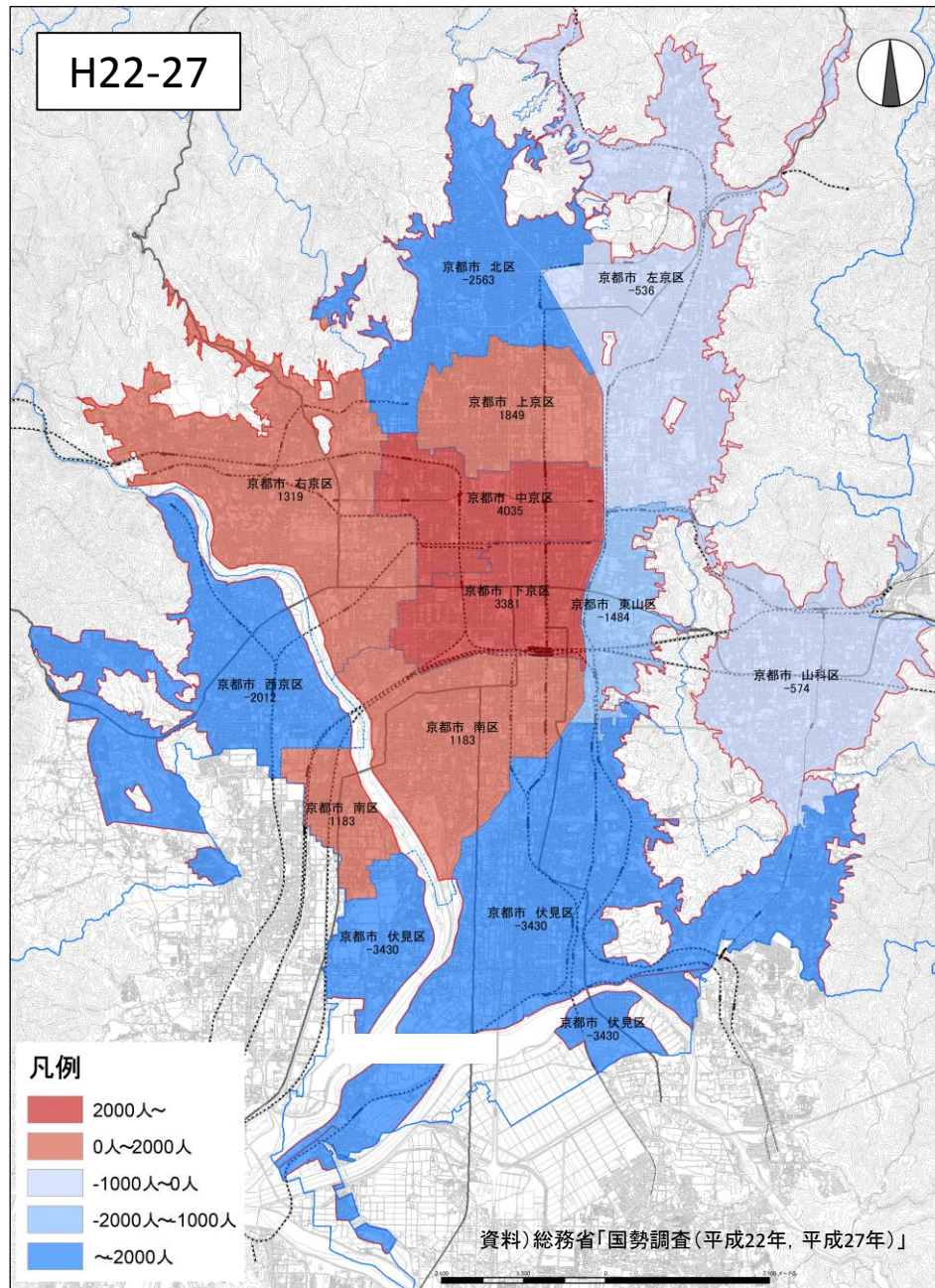
平成 29 年 10 月

京都市 都市計画局 都市計画課

# 1 京都市の人口概要

## 〔実績〕

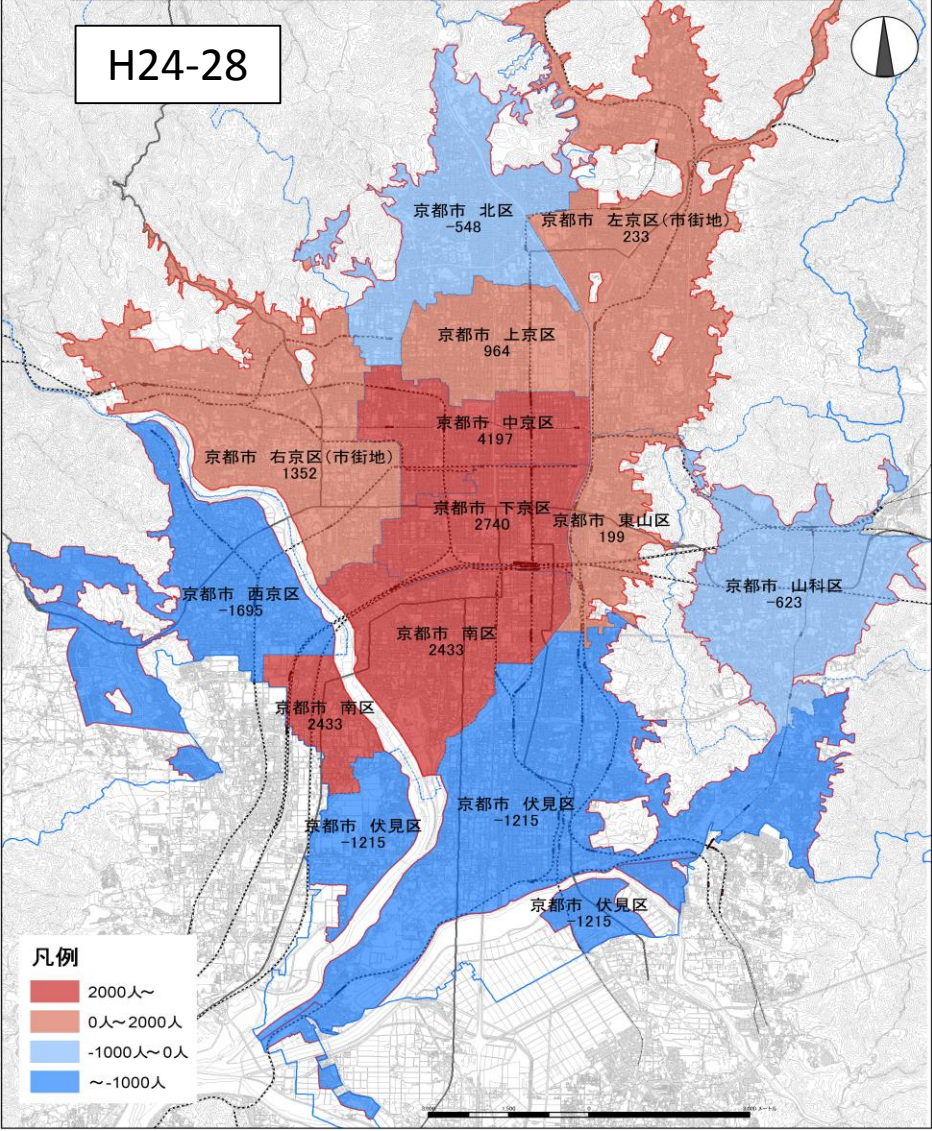
# 行政区別の人口推移(H22-27)



中心部での増加が目立つ。  
一方, 周辺部では, 大きく減少している。

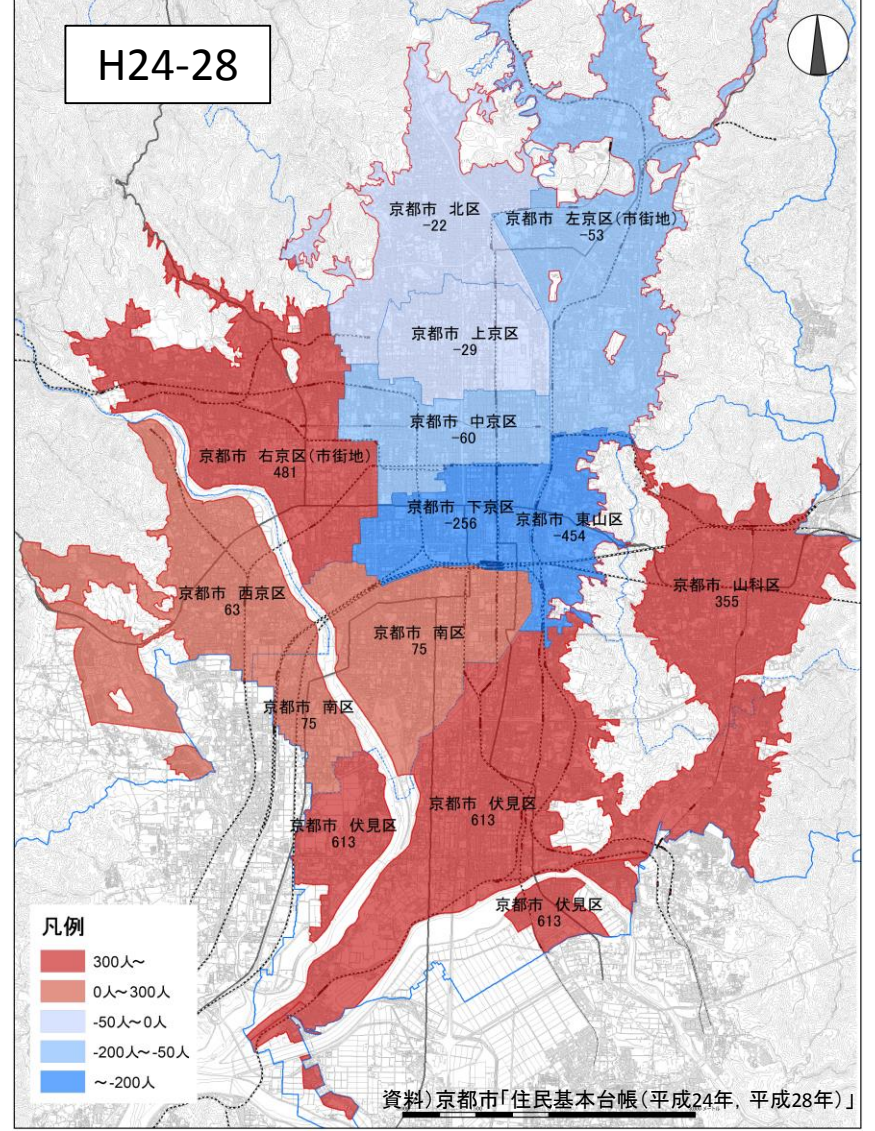
# 行政区別の社会動態の推移 (H24-28)

生産年齢人口の社会動態の推移 (H24-28)



生産年齢人口は、中心部での転入超過が大きい。一方、周辺部では、転出超過により大きく減少している。

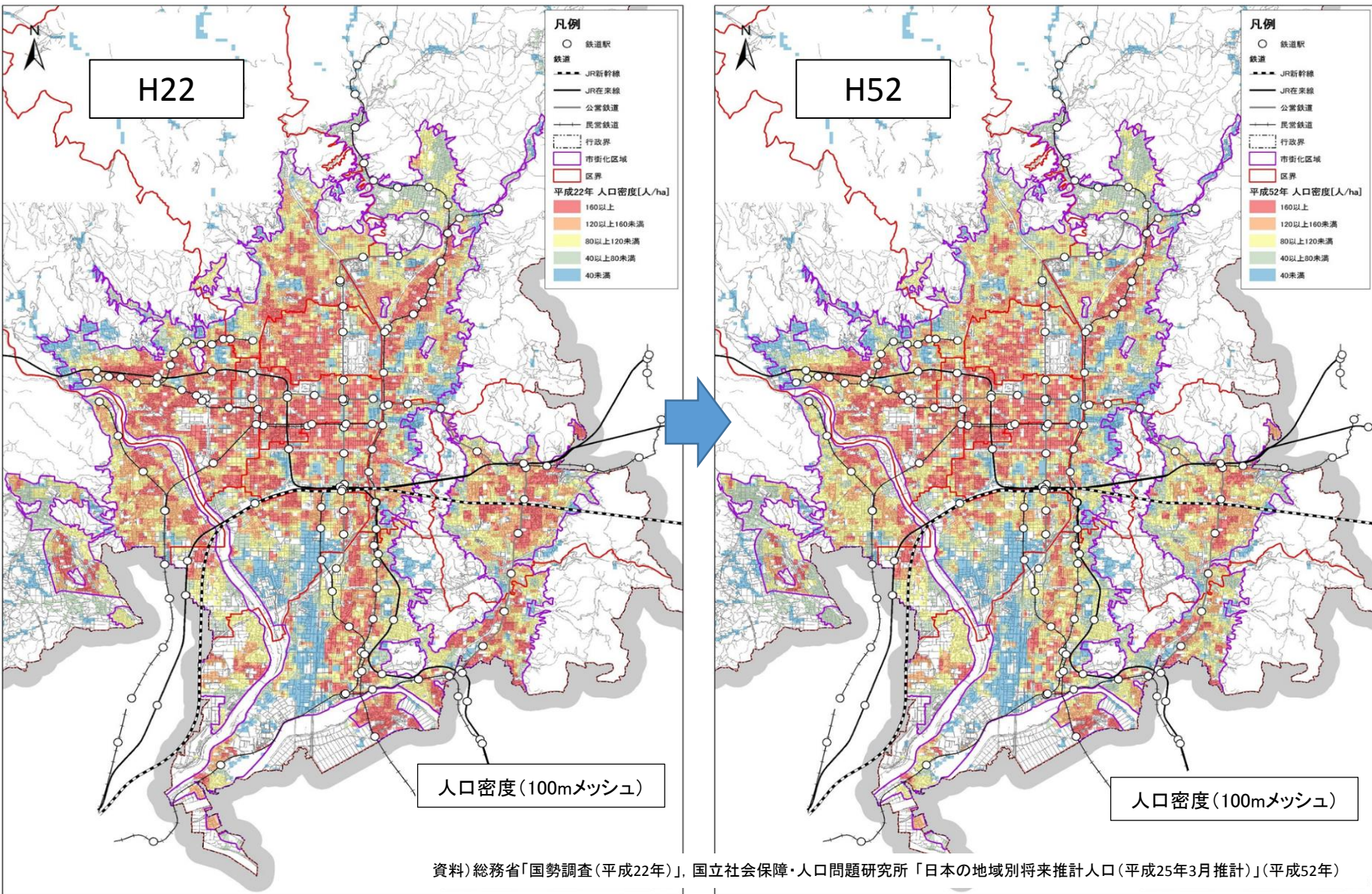
高齢者人口の社会動態の推移 (H24-28)



高齢者人口は、山科, 右京, 伏見区において、特に転入超過が大きい。

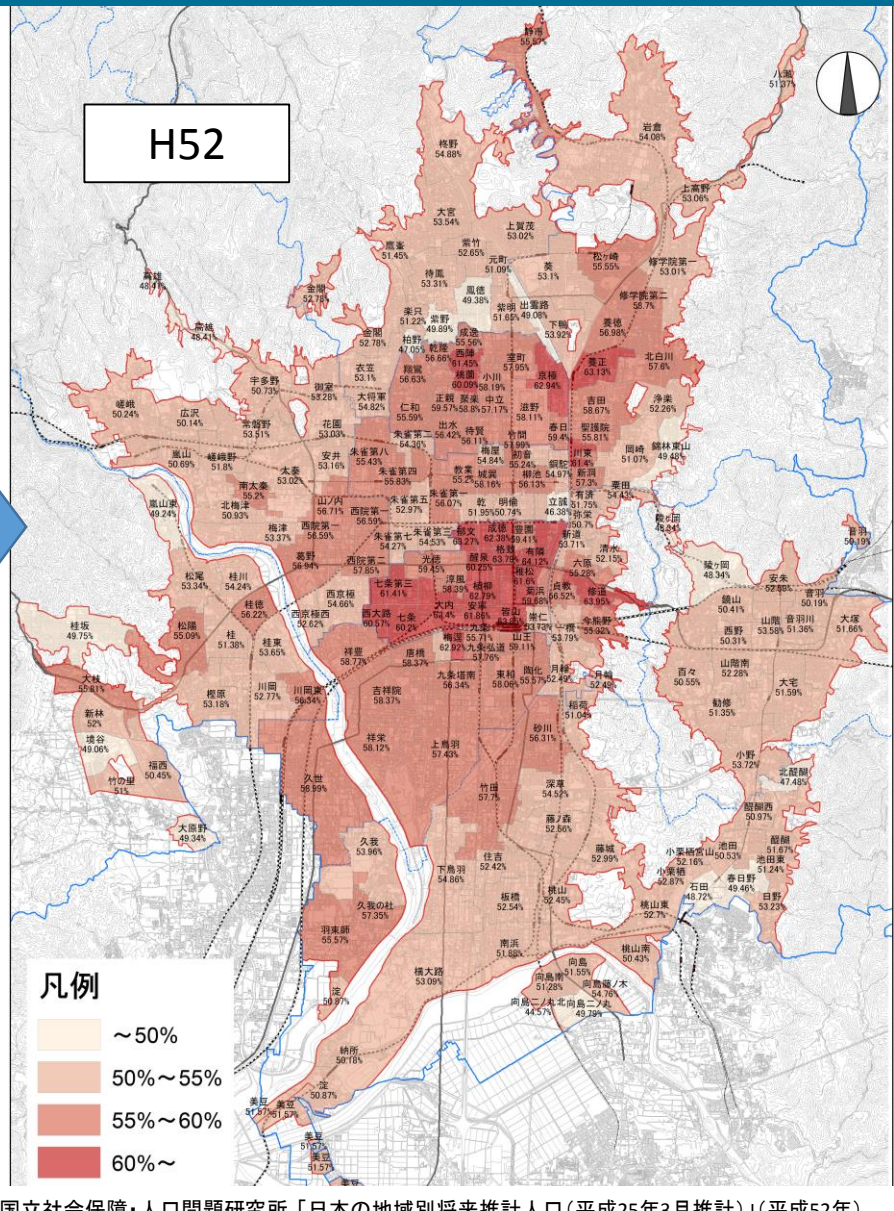
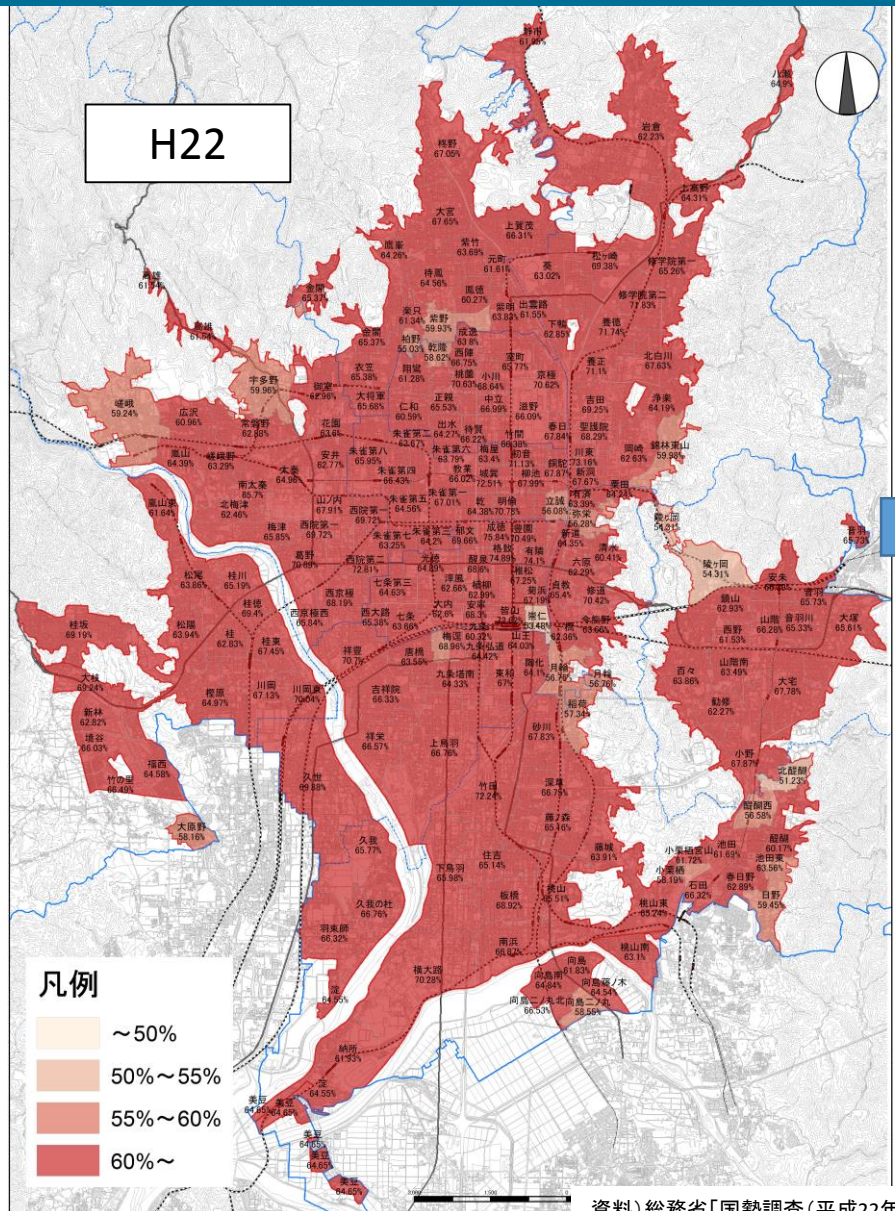
## 2 将来人口の予測

# 人口密度の推移(H22-52) 予測



全体として人口密度は減少傾向にあるものの、中心部では依然として高い人口密度が維持される。

# 生産年齢人口(15-64歳)の割合の推移(H22-52)予測

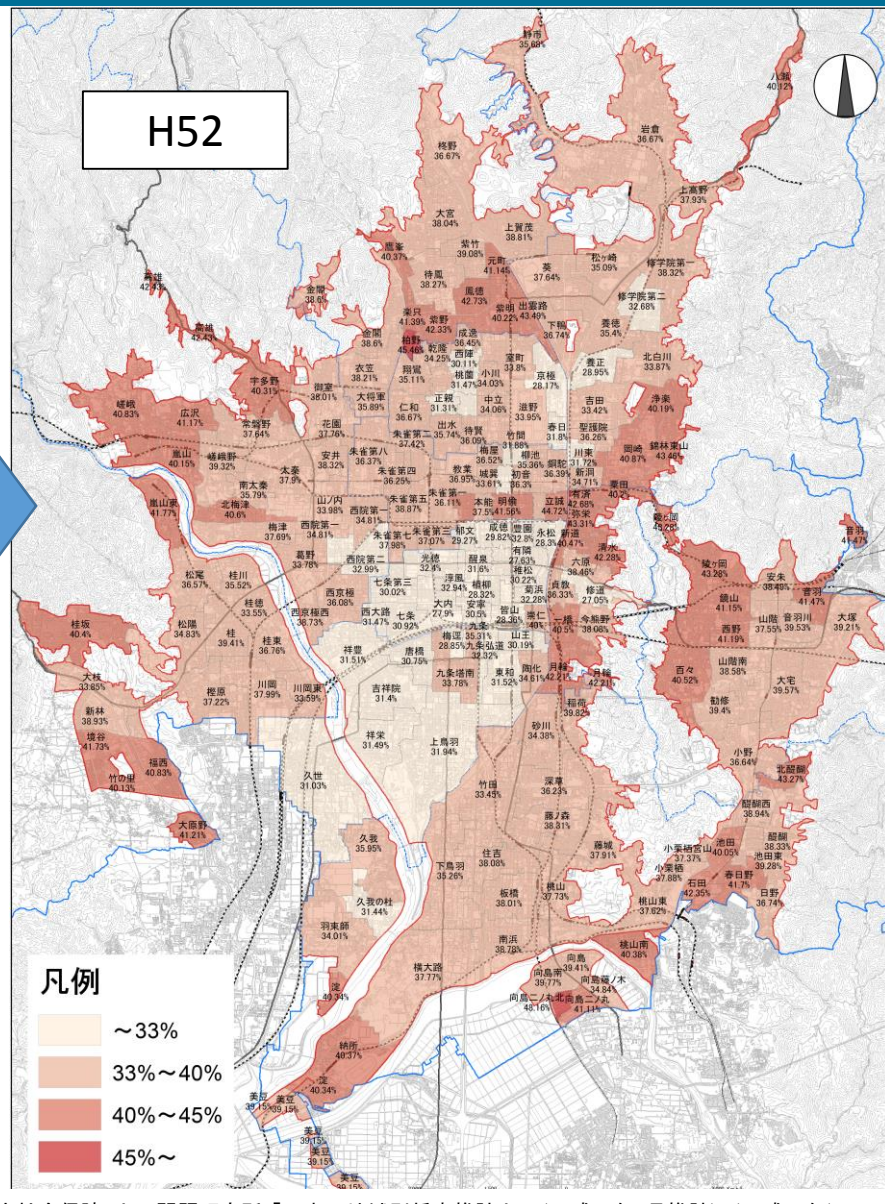
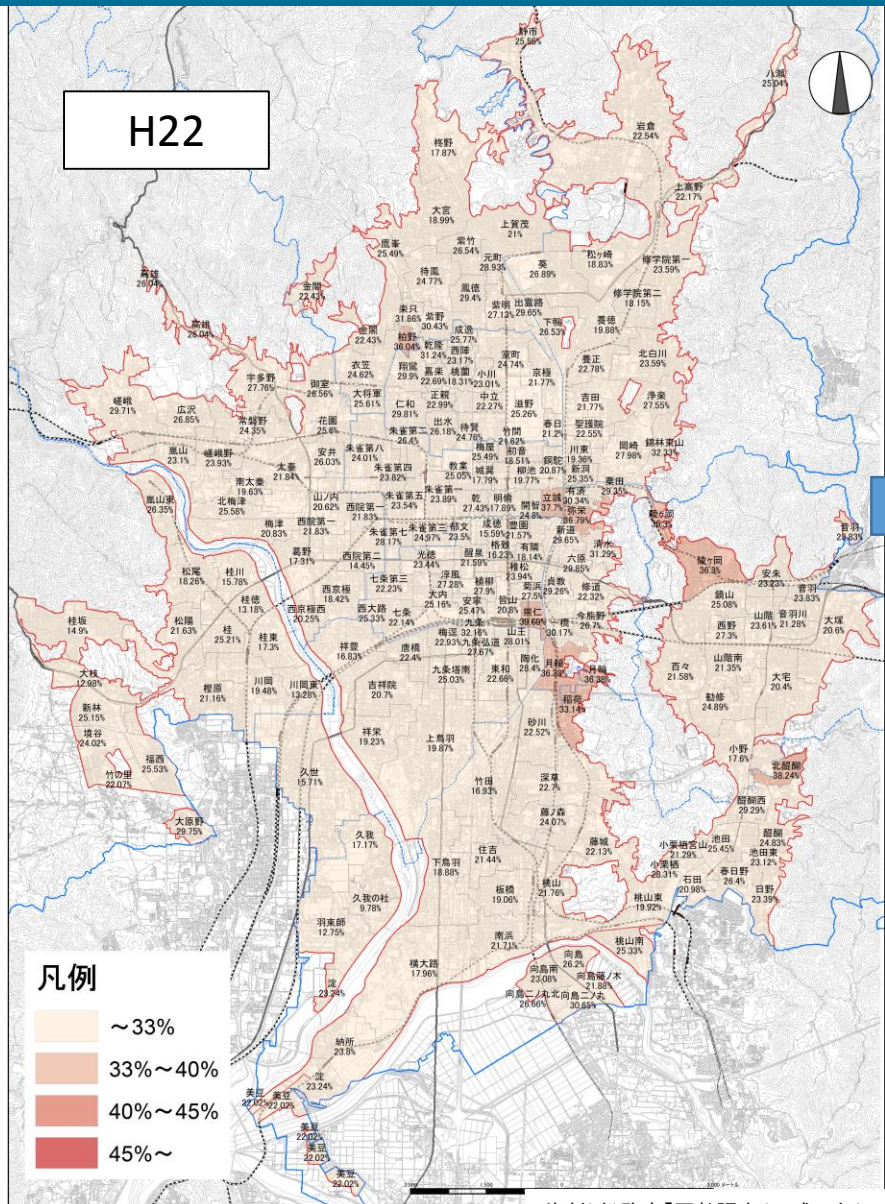


資料) 総務省「国勢調査(平成22年)」, 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」(平成52年)

[H22] 市域全域にわたり大きな差が見られない。

[H52] 中心部では生産年齢人口の大きな低下は見られないが、周辺部では大きく減少する見込み。

# 高齢者人口(65歳以上)の割合の推移(H22-52)予測



資料)総務省「国勢調査(平成22年)」, 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」(平成52年)

[H22]高齢者人口の割合は、東山区等の一部で特に高いものの、市域全域にわたり大きな差が見られない。

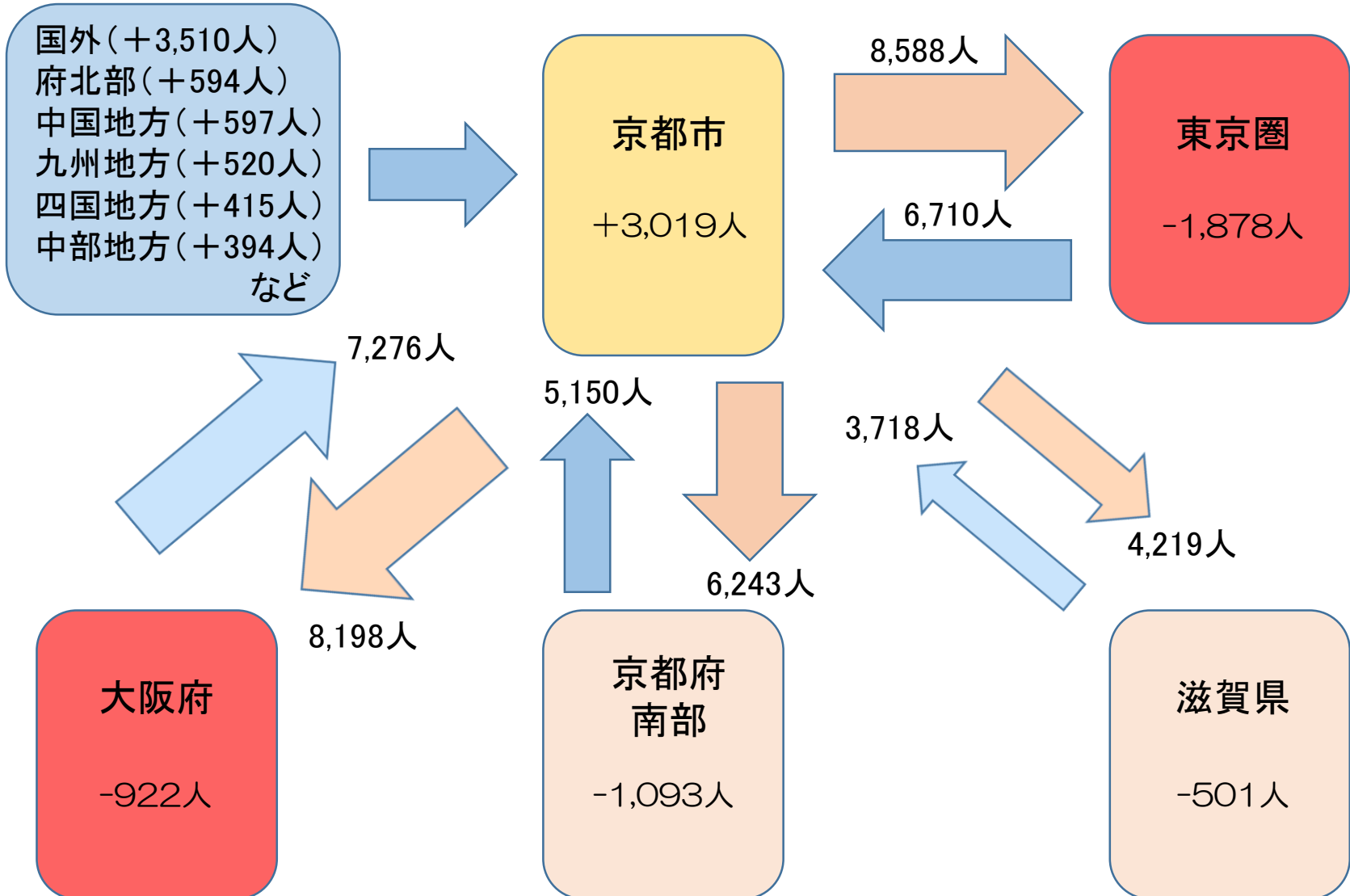
[H52]全体的に高齢化率が上昇。とりわけ周辺部での高齢化が著しい。



### 3 他都市との出入り 〔居住(夜間人口)〕

# 京都市と他都市との転入・転出の状況(平成28年)

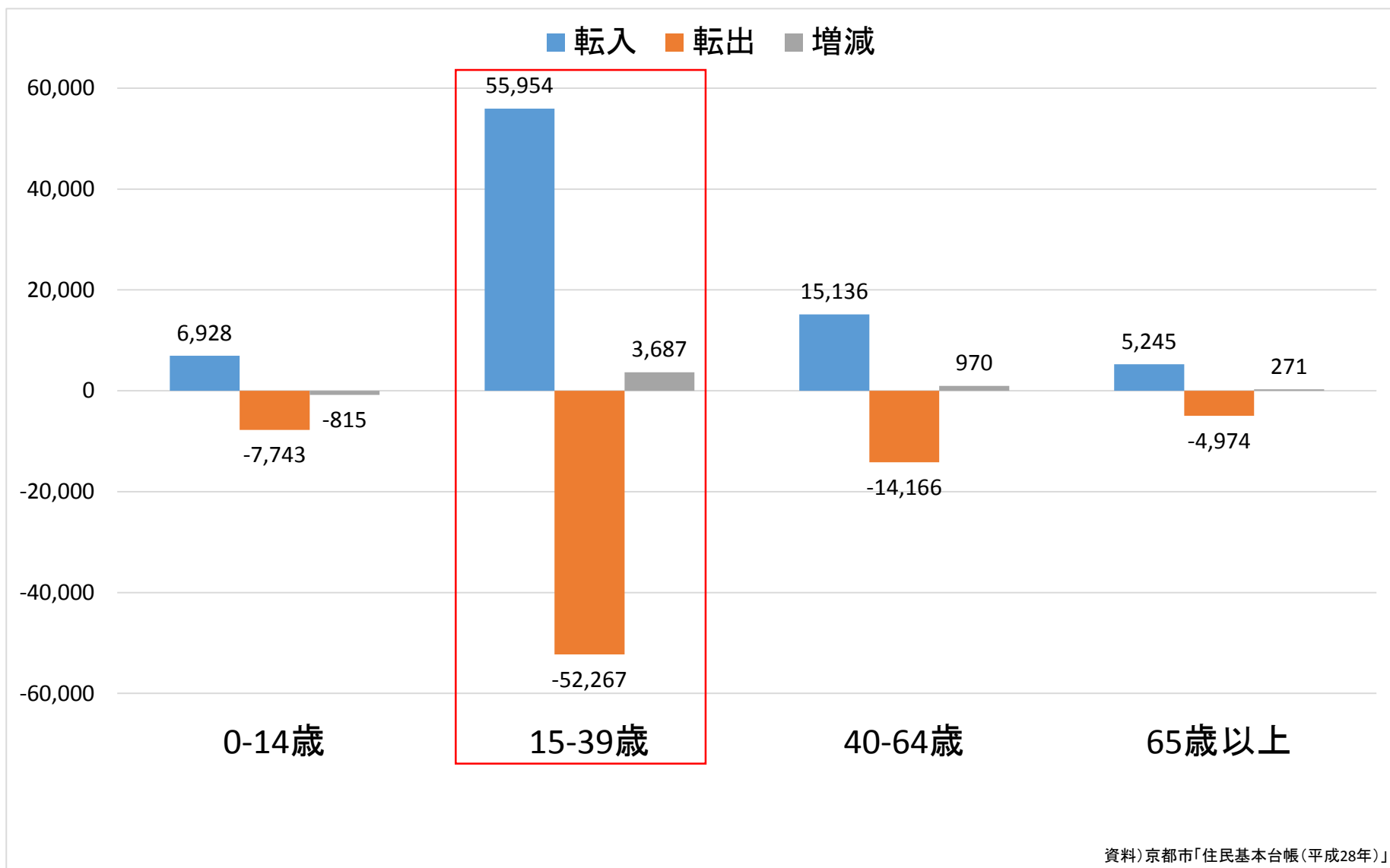
京都市全体では転入超過。東京圏，大阪府，府南部，滋賀県に対しては転出超過



資料)京都市「住民基本台帳(平成28年)」

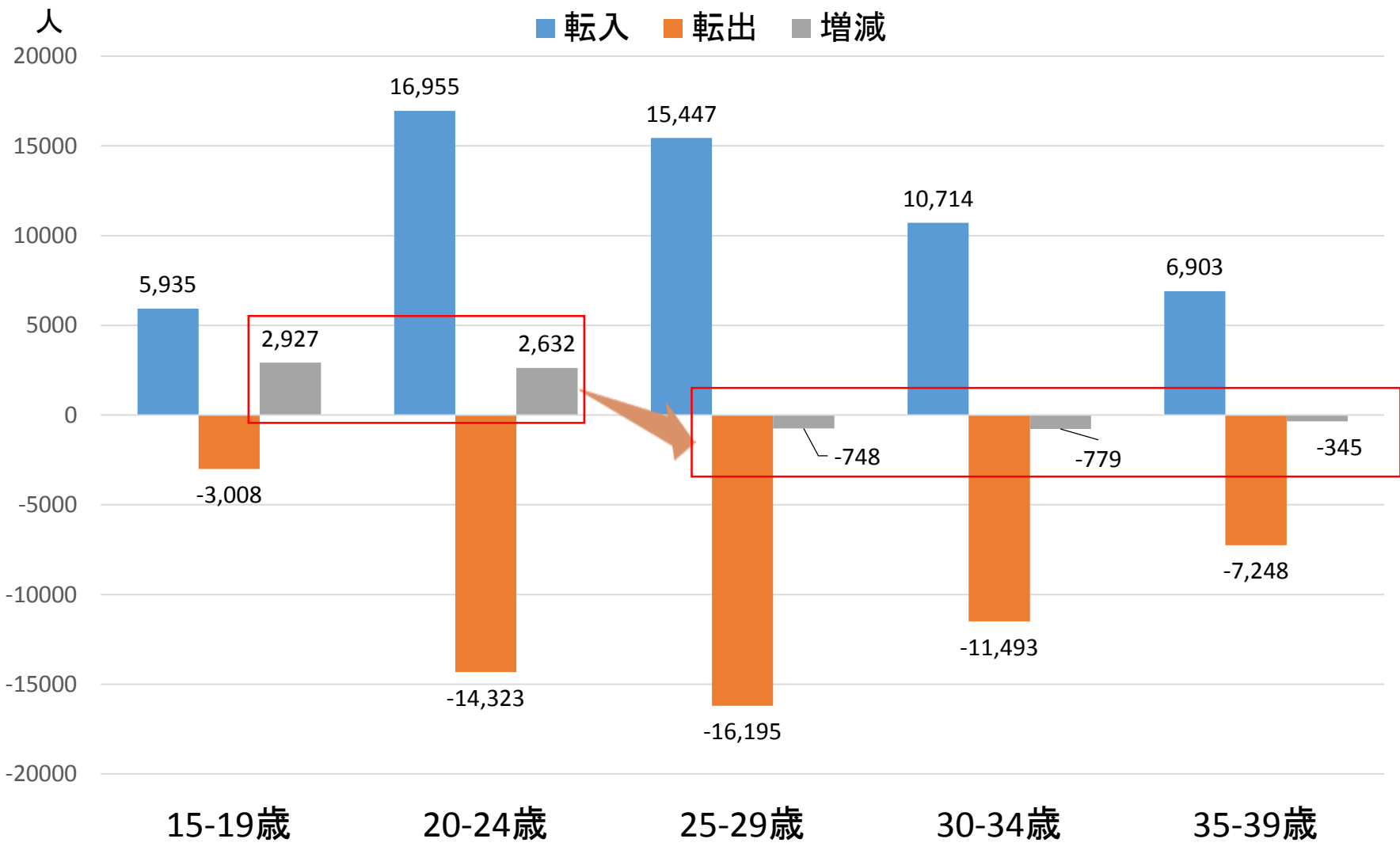
# 年齢層別の社会動態(全体の転入・転出)

大学入学, 就職, 結婚, 子育て, 住宅購入のタイミングにおける転入転出の動きが大きい。



# 年齢層別の社会動態(15~39歳の転入・転出)

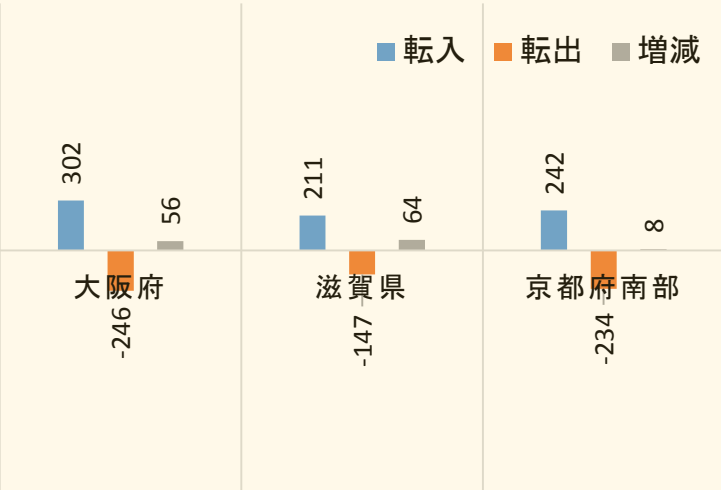
15~24歳: 転入超過(学生~就職)  
25~39歳: 転出超過(社会人~結婚~出産~子育て)



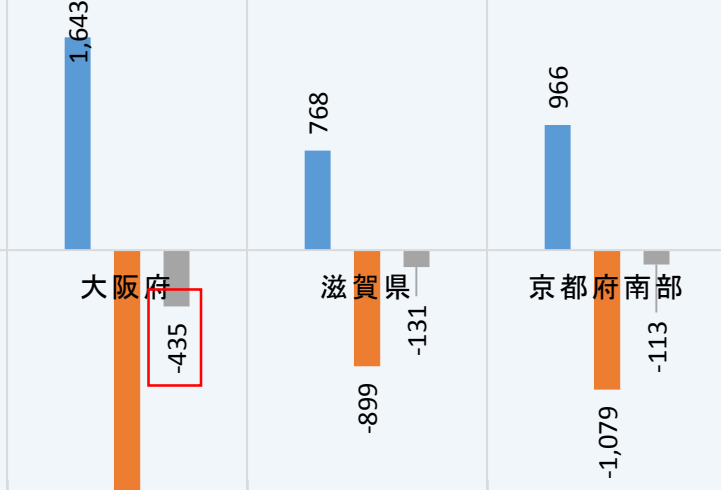
資料)京都市「住民基本台帳(平成28年)」

# 年齢層別の社会動態(15歳以上の転入・転出)

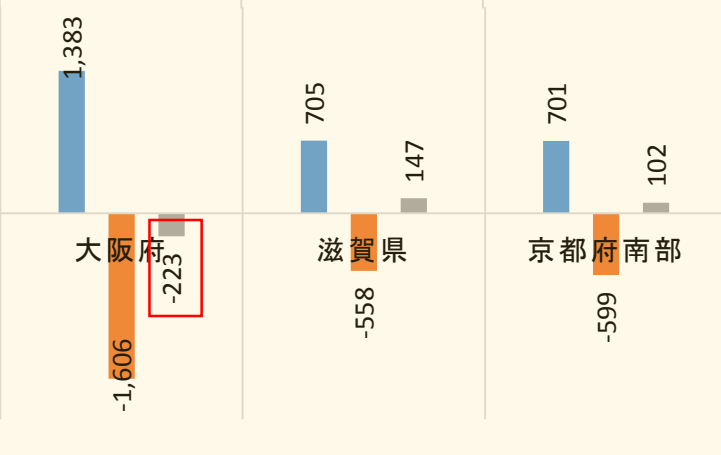
## 15～19歳



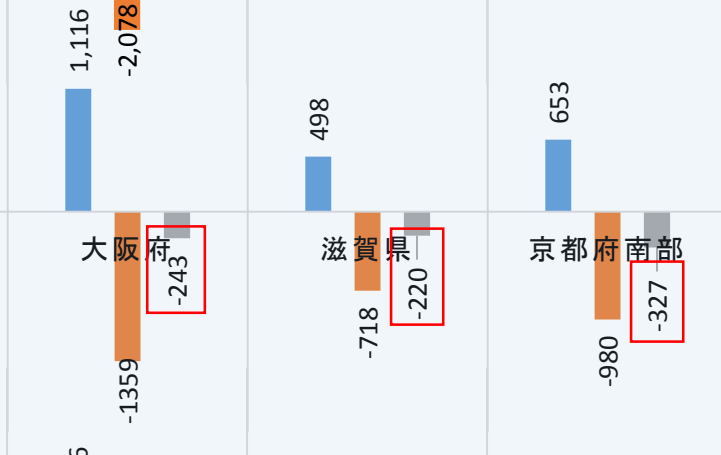
## 25～29歳



## 20～24歳



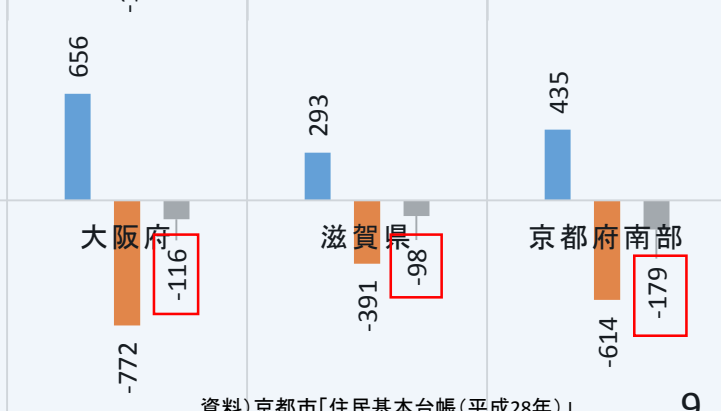
## 30～34歳



大学卒業後の就職時に、**東京都**、**大阪府**へ転出超過

結婚, 子育て, 住宅購入時に、**大阪府**、**滋賀県**、**京都府南部**へ転出超過

## 35～39歳

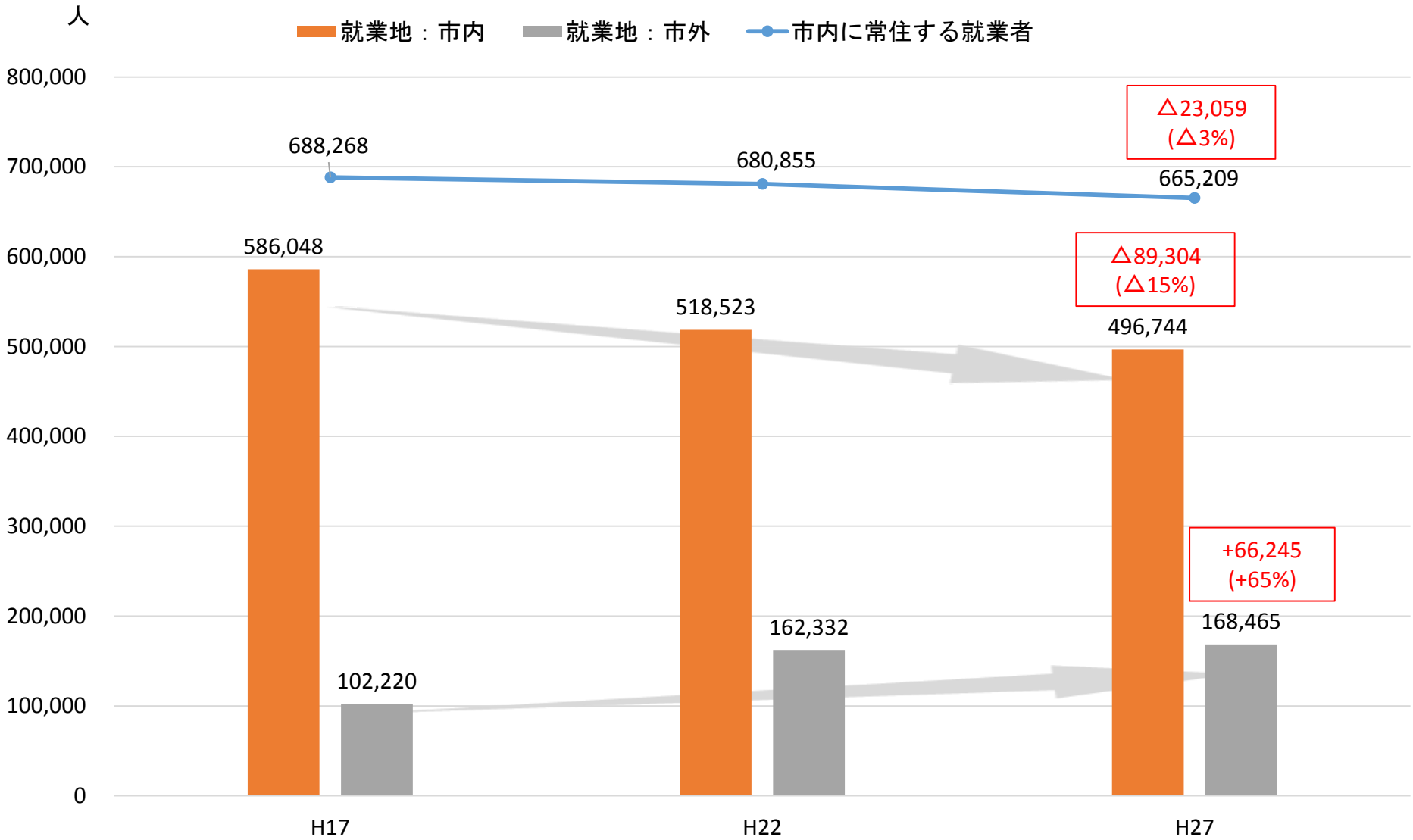


資料)京都市「住民基本台帳(平成28年)」

## 4 他都市との出入り 〔通勤(昼間人口)〕

# 市内に常住する従業者(15歳以上)の就業地の変化

市内に常住する従業者(労働人口)は微減。市内常住者のうち、**市内での就業者が減少**する一方、**市外での就業者が増加**(→ 転出予備軍の可能性)



資料)総務省「国勢調査(平成17年,平成22年,平成27年)」

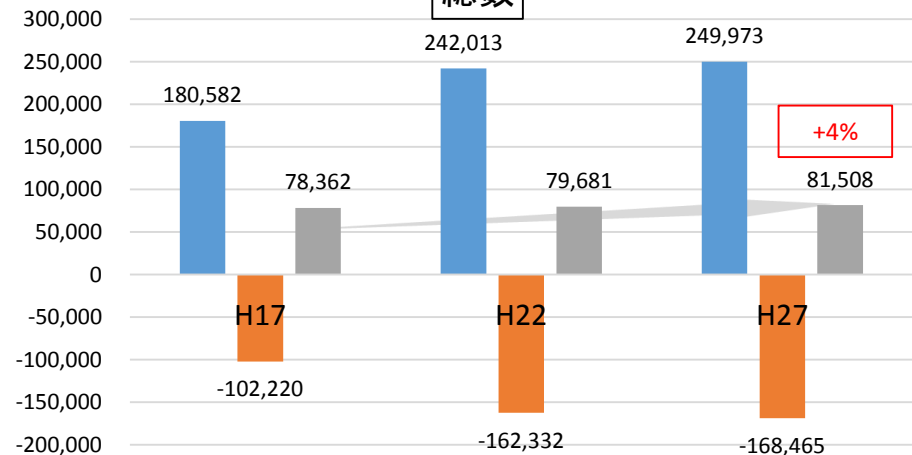
# 通勤流動の推移

市内従業者は、大阪府、大津市、長岡京市などからの流入（京都市内へ通勤）が増加  
 ⇒ それら周辺都市に居住地を移し、京都市内に通勤していることが考えられる。

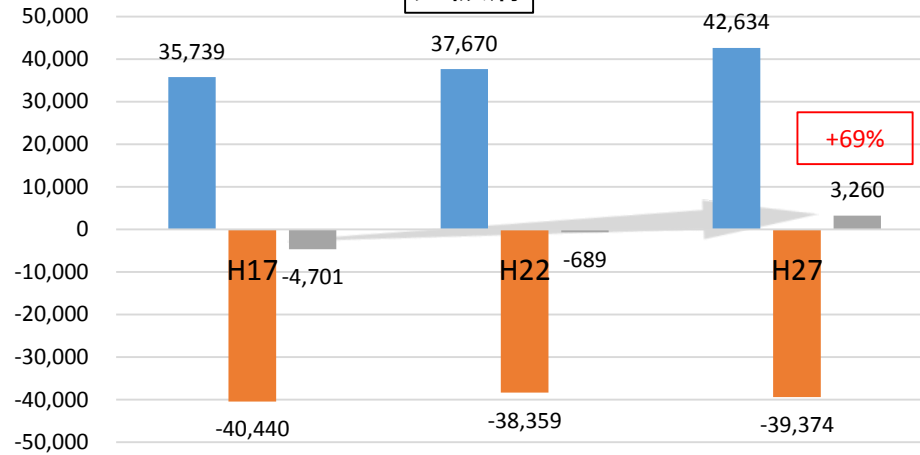
## 市内への流入が増加している地域

■ 流入（市外常住で市内就業） ■ 流出（市内常住で市外就業） ■ 増減

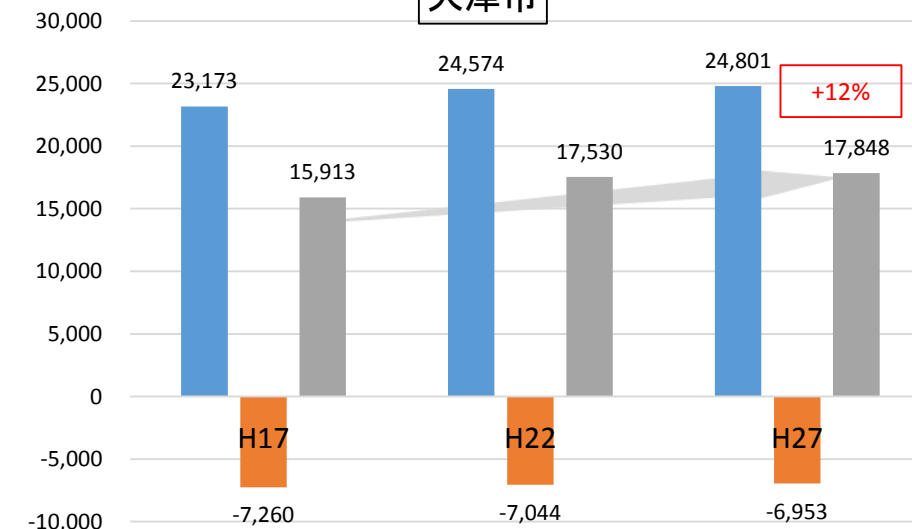
### 総数



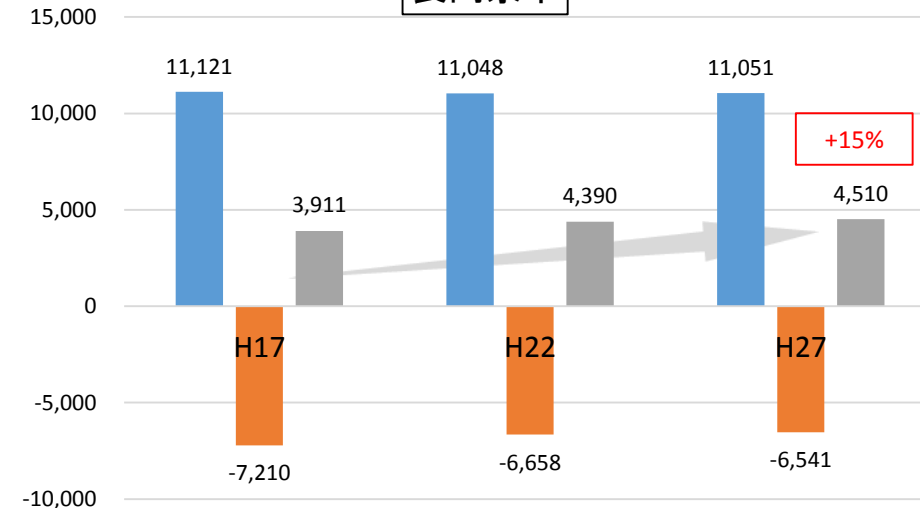
### 大阪府



### 大津市



### 長岡京市



資料) 総務省「国勢調査(平成17年, 平成22年, 平成27年)」

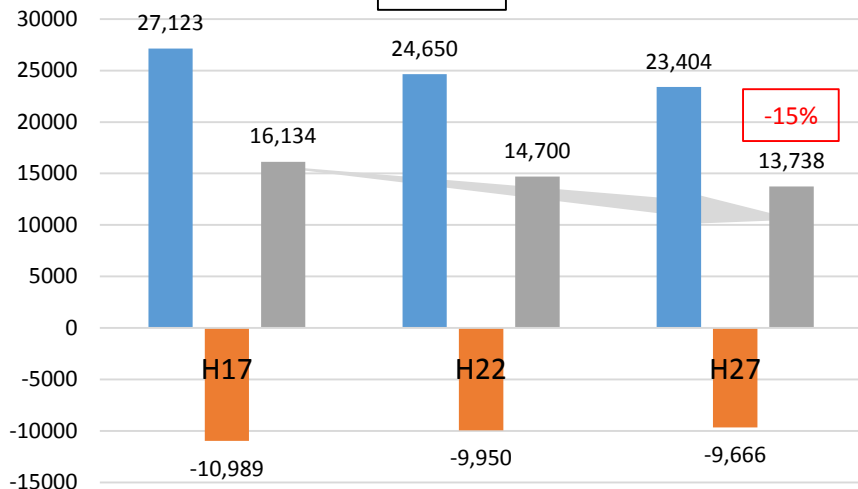


# 通勤流動の推移

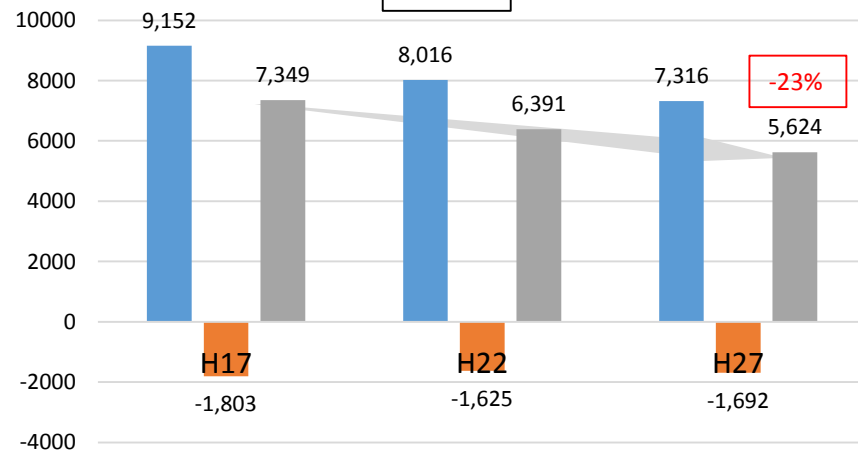
一方、市内従業者は、宇治市、向日市などからの流入（京都市内へ通勤）が減少  
 ⇒ 大津市などと異なり、**京都市外での就業が増加**したことが考えられる。

## 市内への流入が減少している地域

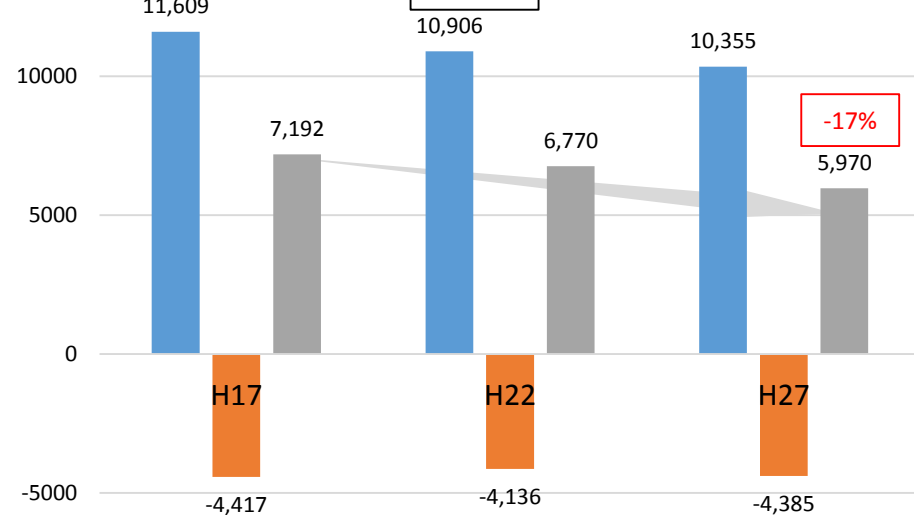
### 宇治市



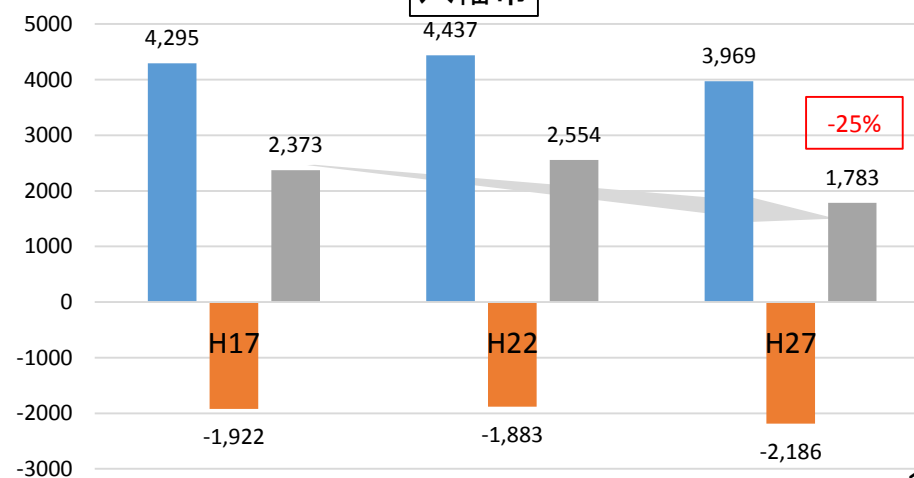
### 城陽市



### 向日市



### 八幡市



## 5 今後の検討に当たって

# 課題項目と論点整理

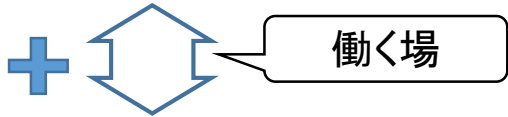
## 持続可能な都市の構築の検討に向けた課題項目と論点整理

課題項目	第1回検討部会での御意見も踏まえた論点整理	想定される主な対応項目			
		I 商業・業務機能の集積拠点	II 住宅地・生活拠点	III ものづくり拠点	IV 緑豊かな地域
① 持続可能な都市に向けた基本的理念と都市格の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都特有の歴史的資産・文化の継承, 景観の保全・創造</li> <li>定住人口の確保 (市内周辺部における人口減少, 若年・子育て世代の市外流出への対応)</li> <li>市民生活と調和した国際観光都市・京都の発展</li> </ul>	都市の魅力・都市格の向上と持続性の確保			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通や道路等の交通ネットワークの活用</li> </ul>	地域をつなぐネットワークの維持・充実			
② 都市機能と交通ネットワークの維持・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>商業・業務機能等の集積</li> </ul>	まちの賑わい・活力の創出			
③ 安心安全で暮らしやすい生活圏の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>周辺部の住宅地が持つ良好な住環境の活用</li> <li>空き家の活用・流通促進</li> <li>安心安全な暮らしを確保するための居住地のあり方</li> <li>日常生活を支える医療・福祉・商業等の施設の存続</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域コミュニティの維持・活性化</li> <li>未活用ポテンシャルの有効活用</li> </ul>		
			日常生活の利便性確保		
④ 産業の振興と働く場の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内企業の活性化と働く場の確保</li> </ul>	商業・業務の活性化, 働く場の確保		ものづくり都市としての活性化, 働く場の確保	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業の事業拡大や企業誘致を進めるための産業用地の確保, 産官学連携による新産業創出</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>住工混在地域における土地利用の誘導</li> </ul>				
⑤ 自然環境の保全と個性ある地域の存続	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境の保全, 農林業・観光の振興</li> <li>市街化調整区域等における地域の存続と都市部との交流促進</li> </ul>				周辺地域の持続・活性化

# 今後の検討に向けた「4つのアプローチ」

- \*全ての項目に共通する最も基礎的な要素が**人口**
- \*京都ならではの持続可能な都市の構築の検討に当たっては、**人口減少への対応と同時に歯止めをかけることが重要**

① **定住人口** 生活環境の魅力の維持・向上, 地域コミュニティの維持

+  **働く場**

② **産 業** 市内企業の活性化, 産業用地の確保, 産官学連携 等

市民の豊かさ  
・都市活力の  
向上

③ **文 化** 文化の継承・発展, 世界の文化交流拠点となるまちづくり

④ **交流人口** 市民生活と観光との調和, 市内周辺地域の活性化

都市の魅力  
に磨きをかける



- ・「都市計画マスタープラン（平成24年2月策定）」の実効性をより高めるプランの検討
- ・「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略, 各局施策との分野横断的な連携・融合